



写真3 レプリカ作成会場の様子。レプリカ作成用テーブルは6つ用意されました。各テーブルにはスタッフが一人ずつ配置され指導にあたります。窓際中央のテーブルではレプリカの型に流し込むための石膏と絵の具をといた色水が次々と用意されます。会場はかなりの熱気に包まれています。



写真4 石膏と色水をよく混ぜて、型に流し込んでいる参加者。粘性の高い液体が型の隅まで届くよう丁寧に流し込みます。

イベント当日はウミサソリに関連して、ウミサソリと分類学上近縁関係にある三葉虫の化石や、ウミサソリの子孫にあたる現生サソリの抜け殻が展示されました。また節足動物がもつ複眼の説明(三葉虫を実例として)や、その世界を体験してもらうコーナーも設置されました。様々な角度からウミサソリを理解して頂けたかと思えます。

今回のイベントは地質標本館側のスタッフ12名に加え、博物館実習生6名(千葉大学4名、茨城大学2名)の計18名が指導にあたりました(写真3, 4)。

アンケートをとりましたところ、参加者の多くは次回もレプリカ作りに参加したいと希望しており、このレプリカ作り体験学習会を通して化石に興味を持って頂いたことにうれしさを感じます。地質標本館のイベントとして化石レプリカ作りのほかにも、化石クリーニングをしたい、化石や鉱物の発掘をしたいなどの意見も挙がりました。皆様のご意見を基に地質標本館でも様々なイベントを考案していきたいと思っています。どうぞお楽しみに。

(井川敏恵, 利光誠一, 奥山康子, 坂野靖行, 中澤 努, 兼子尚知, 中島 礼, 松江千佐世, 谷田部信郎, 新津節子, 春名 誠, 青木正博)

**地質調査総合センター組織の再編
—地質調査情報センターの発足について**

平成16年8月1日に「地質調査情報センター」が発足します。このセンターは地質調査総合センター(Geological Survey of Japan)の中核というべき組織で、産総研発足以来、これまで成果普及部門(現広報部)所属の地質調査情報部と国際部門所属の国際地質協力室として、それぞれに活動してきた組織を統合したものです。より効率的に地質情報の整備、品質管理、流通、発信を行い、国内唯一の地質情報拠点として一層の機能充実を図ることを目指しております。Center of Centerとして、地質調査総合センターに所属する研究ユニットや地質標本館と連携して、国内外のニーズに一元的に対応できる窓口の役割を積極的に果たしてまいりたいと思います。

今後ともご指導、ご鞭撻をよろしく願います。

